

CONTENTS

- ☐ 新年のごあいさつ…………… 1
- ☐ 令和3年度 第3回監事会・第3回理事会…………… 6
- ☐ 第43回 全国土地改良大会群馬大会…………… 6
- ☐ 農業農村整備の集い…………… 7
- ☐ 埼玉県知事への要望活動…………… 9
- ☐ 令和4年度 農林水産予算概算決定の概要…………… 10
- ☐ さいたま水土里ネット女性の会 設立総会・研修会…………… 11
- ☐ 令和3年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要…………… 13
- ☐ 市町村長・水土里ネット理事長・市町村農政担当課長研修会…………… 15
- ☐ 令和3年度 埼玉県多面的機能支援推進会議研修会…………… 16
- ☐ お知らせ…………… 17
- ☐ 金利改定…………… 17
- ☐ 連合会日誌…………… 17
- ☐ 第9回 彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト…………… 18
- ☐ 謹賀新年…………… 21

埼玉の土地改良

落陽の田まわり（坂戸市）



新年のごあいさつ

水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業団体連合会

会 長 三ツ林 裕 己



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の運営並びに農業農村整備の推進に、格別のご支援とご協力頂いておりますこと、心より感謝と敬意を表します。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症により、世界経済が大きな影響を受けるとともに、地球規模の異常気象による大規模災害が世界各地で頻発しました。

日本国内におきましても、新型コロナウイルス感染症は、年末年始の第3波、4月～5月の第4波、7月～9月の第5波がありました。そのため、10月6日に予定されていた、全国土地改良大会群馬大会は、WEBでの開催になりました。

埼玉県は、去年は大きな自然災害はありませんでしたが、令和元年10月の台風19号による被害は、未だ記憶に新しいところでございます。

毎年のように、大規模地震や豪雨災害が頻発しており、県民の生命と財産を守るためには、農村地域の防災、減災対策がますます必要となっております。

特に「防災重点ため池」の対策につきましては、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」が、令和2年10月に施行されました。

県内では、244か所の「防災重点ため池」があり、令和2年度までに豪雨、耐震調査が終了し、令和3年度は劣化調査を実施しております。令和4年度から具体的な防災工事の事業が始まる予定です。

本会では、特別措置法に基づいて、埼玉県から「ため池サポートセンター」業務を受託して、令和3年5月31日に、進藤金日子参議院議員、稲場農村整備課長に御臨席を賜り、盛大に開所式を実施しました。

サポートセンターでは、年間50箇所の現地パトロールを行い、施設の点検、管理の確認などを通して、管理者に技術指導を行ってまいります。

さて、来年度の農業農村整備関係予算ですが、昨年末閣議決定された政府案では、令和4年度当初予算4,453億円と令和3年度補正予算1,832億円とを合わせ、前年度予算と同額の6,285億円が確保されました。

コロナウイルス感染症による疲弊した経済の立て直しのために、政府の財政が非常に緊迫している状況の中で、現場のニーズにしっかり応えられる予算規模です。

農業は国の基です。本県においても、ほ場整備事業等により担い手の規模拡大が進むとともに、新たな担い手も生まれております。引き続き農業農村整備事業の充実した予算を確保し、生産性の向上、農業所得の増大、農家経営の安定等、豊かさを感じる農業農村の実現に向け邁進してまいります。

令和4年の新春を迎え、本会役職員一丸となって、会員の支援に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本県農業農村の発展と、会員並びに関係皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

～未来につなぐ、日本一暮らしやすい埼玉の実現へ～

埼玉県知事 大 野 元 裕



明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の流行は、世の中の在り方を一変させましたが、先人たちが力強く埼玉県を発展させてきたように、埼玉150周年を契機に、より良い埼玉へと新しい一步を記していくという強い決意の下、新年を迎えました。

埼玉県土地改良事業団体連合会会員の皆様には、感染症対策への格別の御理解と御協力をいただき、改めてお礼を申し上げます。今後の感染再拡大に備え、引き続き、強い危機感と緊張感を持ちつつ、ポストコロナを見据え、感染症と共存できる強い埼玉県経済を構築してまいります。

本県は今、新しい生活様式や新たな社会への変革、今後迎える人口減少・超高齢社会など大きな変化の時期を迎えています。

私は、激動の時代に未来を切り開いてきた渋沢栄一翁の高い志と不屈の精神を受け継ぎ、誰一人取り残さない「埼玉版SDGsの実現」に向け、自らの信念を貫き、全力で取り組んでまいります。

さて、県では埼玉県DX推進計画に基づき、昨年12月に具体的な取組や工程を示すロードマップを策定しました。社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の実現は、産業や暮らしに大きな変革をもたらし、生活をより安心・安全、便利で、豊かに変えるとともに、様々な課題を解決する大きな可能性を秘めています。今後、官民間わず様々な分野で変革を促すDXを重点的に推進してまいります。

また、東京2020大会のレガシーとして、更なるスポーツの振興や国際交流、ひいては共生社会の実現などを次代へつないでまいります。昨年11月の県主催のボッチャ大会に私も参加しましたが、障害の有無に関わらず楽しめるスポーツです。このような取組を通して互いを理解し、共に支え合う気運が高まることを期待しています。

農業農村整備の分野においては、近年の豪雨や地震等の頻発化・激甚化に伴い、ため池の決壊等による被害が懸念されていることから、昨年5月には、貴連合会の御協力の下で「埼玉県ため池サポートセンター」を開設するなどし、ため池の防災対策を推進しているところです。

県としても、引き続き、農業農村整備に全力で取り組んでまいります。事業を推進する上で、農地や農業水利施設の管理を担い県土の発展を支えてきた貴連合会の皆様のお力添えが不可欠です。引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年の干支「寅（虎）」にあやかり力強く勇気を持って、皆様とともに「ワンチーム埼玉」で、誰もが自分らしく活躍できる「日本一暮らしやすい埼玉」を目指してまいりましょう。

新年にあたって

全国水土里ネット
全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊 博



令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。我が国では、ワクチン接種が進み感染者数は減少しているものの、世界的には変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認いただき、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、三つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体の施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第五次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々、土地改良団体においても将来の組織体制強化のためにも、女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としましては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思います。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

しんどう かねひこ
参議院議員 進 藤 金 日 子



新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、埼玉県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出していただいてから、早5年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和3年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靱化5か年加速化対策：1,012億円）です。令和4年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和4年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和4年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。

主な事業制度の新規・拡充事項としては、①農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、②「農地耕作条件改善事業」の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等とともに除草機器を追加、③省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、④「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の30%から50%に嵩上げ）、⑤「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線での政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋がっているものと確信しています。埼玉県内にも度々訪問し、色々なご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。

全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一步一步踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ7か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高く厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様の引き続きのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。

新年のご挨拶

農林水産大臣政務官

参議院議員 宮 崎 ま さ お



埼玉県土地改良事業団体連合会会員ならびに関係の皆様にご挨拶申し上げます。旧年中は多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

昨年10月発足の岸田内閣ならびに11月の第二次岸田内閣において、農林水産大臣政務官を拝命しました。これも偏に埼玉県の皆様ならびに、進藤金日子参議院議員はじめ先輩国会議員のご指導とご支援によるものであり、本年も新たな気持ちで現場主義に徹しつつ皆様のご意見をお伺いしながら一層努力して参る所存ですので、引き続きご指導をお願いいたします。

さて、ここ2年に亘り農林水産業はじめ各方面に影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、国民の皆様のご協力により、昨秋以降の新規感染者数は低位に推移していますが、新たな変異株による感染拡大も懸念される昨今の状況からは決して油断することはできません。

経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって食料安全保障の確立は重要であり、そのためには我が国の農林水産業の持続的発展が不可欠です。

こうした中、昨年末には、令和4年度当初予算案が閣議決定され、また、臨時国会で令和3年度第1次補正予算が成立し、農業農村整備事業関連予算として総額6,300億円を確保することができました。

令和4年度当初予算案では、前年度当初を上回る4,468億円を確保し、農地の大区画化、水利施設の老朽化対策等を推進することとしています。また、令和3年度補正予算では、TPP対策や防災・減災、国土強靱化の加速化対策として1,832億円が計上されており、全国の皆様のご要望にしっかりと応えられる規模となっています。

また、これから国会で議論される令和4年度当初予算案に関連して、土地改良法の改正案を検討することとしており、主な事項としては、ため池等の急施の防災事業に豪雨対策を加えること、農地中間管理機構関連農地整備事業の対象に農業用水路等を加えること、市町村や土地改良区が実施する防災対策事業への土地改良事業団体連合会による技術的支援等を可能とすること、また、組織の維持が困難となった小規模土地改良区について、法人格を維持しながら認可地縁団体等に移行できる規定を設けることなどが予定されています。予算と制度が車の両輪となって土地改良の効果が確実に発現できるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張る所存です。

これからも皆様とともに土地改良を推進するため、進藤金日子議員と一緒に国政で取り組んで行けるよう、埼玉県の皆様の格段のご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様お一人おひとりご家族にとって素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。

令和3年度 第3回監事会・第3回理事会

本会は11月1日（月）に令和3年度第3回監事会・第3回理事会を開催した。次の議事について審議し、それぞれ全て原案通り可決された。

【第3回監事会議事】

議案第1号 令和3年度収支補正予算（案）の承認について

【第3回理事会議事】

議案第1号 令和3年度収支補正予算について

（報告事項） 今後の会議開催予定、令和3年度収支状況について



理事会の様子

第43回 全国土地改良大会群馬大会

第43回全国土地改良大会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1年延期され、このたび10月6日、群馬県高崎市Gメッセ群馬会場、東京会場、次期開催県の沖縄会場と全国各地をオンラインで結び、～鶴舞う形 群馬の大地 水土里の未来へ ここから羽ばたいて～をテーマに、土地改良・農業農村整備にかかわる関係者3,000名以上が参加、視聴した。新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力を

あけて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的として、初のオンラインで開催された。

式典では、開催県である群馬県土地改良事業団体連合会 熊川栄会長の開会挨拶に続き、主催者の全国土地改良事業団体連合会 二階俊博会長が「農家の方々が期待を持って働けるような環境をつくるため、一致団結して私たちは今後も『戦う土地改良』を引き続き継続していくためにも、皆様からの一層の支援をお願いしたい」と呼びかけた。続いて、群馬県の山本一太知事、高崎市の富岡賢治市長から歓迎の挨拶があった。来賓として、金子原二郎農林水産大臣、小淵優子衆議院議員、都道府県土地改良事業団体連合会 会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員がそれぞれ祝辞を述べられた。

続いて、農林水産大臣表彰を含む67名の土地改良事業功績者表彰が行われ、本県からは、元荒川上流土地改良区 岩田讓啓前理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞された。

その後、安部伸治農林水産省農村振興局次長より「未来（あす）の土地改良」と題して基調講演、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子参議院議員から講演があった。

大会宣言では、群馬県立吾妻中央高等学校の学生2名による朗読を行い、採択された。

最後に、次期開催県の沖縄県土地改良事業団体連合会 古謝景春会長から挨拶があり、大会は閉会となった。



大会の様子

農業農村整備の集い



全国水土里ネット 二階会長挨拶

“農を守り、地方を創る予算の確保に向けて”をテーマにした、全国水土里ネット、都道府県水土里ネットの主催による「農業農村整備の集い」が去る11月16日、シェンバッハ・サボー（東京都千代田区）において開催され、コロナ禍の中、国会議員を含め約600名の土地改良関係者が駆けつけた。

本会合には、金子原二郎農林水産大臣、武部新農林水産副大臣、宮崎雅夫政務官をはじめ、牧元幸司農村振興局長、安部伸治農村振興局次長、川合規史農村振興局部長など農林水産省幹部が出席した。

はじめに、主催者である二階俊博全国水土里ネット会長より、挨拶があり、「農家の方々が期待を持って働けるような環境をつくるため、一致団結して闘っていかねばならない」と「闘う土地改良」を強く訴えた。さらに、本年度から本格的に進めている土地改良での男女共同参画について、土地改良団体の活性化のためにも取り組んで欲しいと述べた。

その後、金子原二郎農林水産大臣、自民党の森山裕TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、公明党の石田啓一幹事長、進藤金日子参議院議員・都道府県水土里ネット会長会議顧問の順に祝辞が述べられ、挨拶された。

続いて土地改良における男女共同参画を先駆け的に実践した、故藤井チエ子（山口県土連理事、やまぐち水土里ネット女性の会初代会長）、奥村千扶子（大島堰土地改良理事長、日本ひなた女子会会長）の両氏に、二階俊博全国水土里ネット会長から感謝状が授与された。

最後に、土地改良関係予算の確保や、大規模災害からの復旧・復興を記した下記要請文を来年の全国土地改良大会開催県である水土里ネット沖縄の古謝景春会長が朗読し、これを満場一致で採択された。ガンバロウ三唱は、男女共同参画を踏まえ、加藤里恵（あいち水土里ネット女性の会会長）、斎藤富子（やまぐち水土里ネット女性の会会長）、松野弘宗（水土里ネット北海道・全土連出向中）男女三氏による力強い「ガンバロウ」の発声後、大きな拍手で閉会となった。

大会終了後、本県参加者は、本県選出の国会議員に要請活動を行った。

◆10の要請事項◆

- 一 土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算において、必要な予算を確保すること。
- 二 大規模災害からの復旧・復興を早急に進めること。その際、原形復旧に止まらず、再度災害防止の措置を講じるとともに事務手続の簡素化に取り組むこと。
- 三 食料安定供給の確保、スマート農業の実装、高収益作物への転換、米の需給安定のための麦・大豆の生産拡大、農産物の輸出促進等を図るため、農地集積・集約化を促す農地の大区画化と水田の畑地化・汎用化を一層推進すること。
- 四 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の長寿命化、豪雨・耐震化対策等を一層推進すること。
併せて、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策については、2年目以降も1年目と同様に十分な予算を確保すること。
また、「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」及び「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づき、技術的・財政的支援を講ずること。
- 五 複式簿記の導入など組織運営基盤の強化に対する支援を、水土里ネットの声に真摯に耳を傾けて推進すること。
- 六 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設等の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担及び責任が生じないように配慮すること。
- 七 安全・安心で快適な生活環境を確保するため、農業集落排水施設や農道等の生活インフラの再編・強靱化、農村地域の情報通信環境の整備を推進すること。
- 八 本年5月に農林水産省が公表した「人・農地など関連施策の見直し」に掲げられた土地改良制度の拡充（ため池等の豪雨対策、農地・農業水利施設の整備等に対する農家負担の軽減を含む支援、市町村や土地改良区を連合会がサポートする仕組み等）を令和4年度予算の成立に合わせて具体化すること。
- 九 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、必要に応じ、農業水利施設の維持管理に関するセーフティネットを構築すること。
- 十 上記事項の実施に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

埼玉県知事への要望活動

本会では去る11月11日、県内8つの土地改良推進協議会長の連名で、大野元裕知事に予算要望活動を実施した。本会からは、三ツ林裕己会長（葛西用水路土地改良区理事長、衆議院議員）、吉田昇副会長（滑川町長）、坪井茂副会長（見沼代用水土地改良区理事長）、大岡早孝常務理事、細井清隆事務局長が県庁を訪れ、大野知事ほか、砂川裕紀、高柳三郎両副知事、強瀬道男農林部長、稲場康仁農村整備課長へ下記4項目の要望書を手渡した。

重点要望事項の説明に対して、大野知事から「『災害・防犯に強い安心安全の埼玉』、『儲かる農林水産業の推進』は私の公約であり、その達成のためにも農業施設の計画的な補修・更新や低コスト生産や高収益作物の導入を推進するほ場の大区画化は、重要と考えている。また、自然災害に備えるため、防災・減災の観点から防災重点ため池の対策も重要である。」と理解を示し、「しっかりと計画的に取り組んでいきたい」と結んだ。

重点要望事項

1 大区画ほ場整備の推進

農業の競争力強化の実現のため、担い手への農地集積・集約化、米の生産コストの低減及び野菜等の高収益作物導入を促す水田の大区画化、汎用化を推進すること。

2 農業水利施設の計画的な更新

農業水利施設の多くは、高度経済成長期に整備され、造成後40年以上が経過した施設が約4割を占め、老朽化が進んでいる。

これらの施設の機能を維持・発揮に必要な補修・更新を、計画的かつ着実に推進すること。

3 農業用ため池の防災、減災対策の推進

県内のため池468箇所内、防災重点ため池が244箇所ある。

令和3年度末までに、市町村がこれらの耐震、豪雨及び劣化調査を進めているが、対策が必要な施設が8割を超える見込みである。

国は、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」により、今後10年間で計画的に調査設計、工事の実施を目標としている。

防災重点ため池の補修、更新を、計画的かつ着実に推進すること。

4 農業集落排水施設の更新

県内の農業集落排水施設133か所について、老朽化が進行した施設の補修・更新を進めているが、令和2年度末現在で、供用開始後20年以上経過した施設のうち、補修・更新が未実施の施設は47施設ある。

農村における生活環境維持のため、施設の補修・更新を計画的かつ着実に推進すること。



大野知事への要望



意見交換の様子

令和4年度 農林水産予算概算決定の概要

令和4年度予算の政府案が昨年12月24日(金)に閣議決定されました。

農林水産予算総額は別表のとおり2兆6,842億円(対前年比116.4%)を計上。このうち農業農村整備事業概算決定額は、3,946億円(対前年比118.4%)となっている。

総括表

令和4年度農林水産予算概算要求の骨子

区 分	3 年 度 予 算 額	4 年 度 概 算 決 定 額
農 林 水 産 予 算 総 額 (対前年度比)	23,050 億円	26,842 億円
1. 公 共 事 業 費 (対前年度比)	6,995 億円	8,229 億円
一 般 公 共 事 業 費 (対前年度比)	6,797 億円	8,031 億円
災 害 復 旧 等 事 業 費 (対前年度比)	198 億円	198 億円
2. 非 公 共 事 業 費 (対前年度比)	16,055 億円	18,613 億円

(注) 1. 金額は、関係ベース。デジタル庁計上の政府情報システム予算を含む。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

公共事業費一覧

区 分	3 年 度 予 算 額	4 年 度 概 算 決 定 額
農 業 農 村 整 備 (対前年度比)	3,333 億円	3,946 億円
林 野 公 共 (対前年度比)	1,868 億円	2,211 億円
治 山 (対前年度比)	619 億円	733 億円
森 林 整 備 (対前年度比)	1,248 億円	1,478 億円
水 産 基 盤 整 備 (対前年度比)	726 億円	860 億円
海 岸 (対前年度比)	63 億円	74 億円
農 山 漁 村 地 域 整 備 交 付 金 (対前年度比)	807 億円	940 億円
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,797 億円	8,031 億円
災 害 復 旧 等 (対前年度比)	198 億円	198 億円
公 共 事 業 費 計 (対前年度比)	6,995 億円	8,229 億円

(注) 1. 金額は、関係ベース。デジタル庁計上の政府情報システム予算を含む。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. 農業農村整備事業関係予算の要求・要望額は、5,263億円。
・農業農村整備事業 3,946億円
・農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分 693億円
・非公共の農業農村整備関連事業（農地耕作条件改善事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業及び農山漁村振興交付金）625億円

さいたま水土里ネット女性の会 設立総会・研修会

令和4年1月26日(水)、クレア鴻巣において「さいたま水土里ネット女性の会」設立総会・研修会が開催された。当日は、来賓、県、土地改良区、県土連の女性職員を合わせて、39名が出席し、会場は華やかな雰囲気にも包まれた。

令和元年5月に内閣府が所掌する「女性活躍推進法」が成立する等、女性がその個性と能力を發揮できる社会づくりが官民一体で進められており、埼玉県でもそのような状況を踏まえ、女性を中心とした情報交換と女性の活躍を発信する場として「さいたま水土里ネット女性の会」を設立する運びとなった。

来賓として、三ツ林裕己埼玉県土地改良事業団体連合会会長、進藤金日子都道府県水土里ネット会長会議顧問、稲場康仁埼玉県農村整備課長、牧千瑞全国水土里ネット土地改良広報センター所長がそれぞれ祝辞を述べられた。続いて、議事に入り、次の事項について審議され、全議案は原案どおり可決された。

【議事】

- 議案第1号 会則(案)について
- 議案第2号 活動計画(案)について
- 議案第3号 役員を選任について



設立記念のバッグ

さいたま水土里ネット女性の会 役員 (順不同・敬称略)

会 長	牛 山 美津子	備前渠用水路土地改良区
副 会 長	長谷川 ちづる	上里幹線土地改良区
	栗 原 かおる	元荒川上流土地改良区
幹 事	田 中 美代子	見沼代用水土地改良区
	松 島 由 香	足立北部土地改良区
	小 高 瑞 葵	川島町土地改良区
	保 泉 由希子	荒川中部土地改良区
	江 積 勝 江	羽生領島中領用排水路土地改良区
	森 泉 文 子	葛西用水路土地改良区
	天 野 智 美	埼玉県土地改良事業団体連合会



三ツ林埼玉土連会長



進藤都道府県水土里ネット会長会議顧問

牛山会長よりひとこと

女性の会での出会いのなかで、お互いに向上心を持って自己研鑽しながら、様々な活動を通して意義のある女性の会にしていきたいと思います。今後も皆様方のご支援とご協力を心よりお願いします。



後半の研修会では「土地改良区の将来像を語る ～体制強化に向けた男女共同参画の取り組み～」をテーマとしたパネルディスカッションを行った。パネリストからは、個人の活動・体験に基づく意見や提言が出され、参加者は熱心に聞き入っていた。



パネルディスカッションの様子



「さいたま水土里ネット女性の会」設立総会での記念写真

令和3年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要

土地改良区体制強化事業 施設・財務管理強化対策において実施した「令和3年度土地改良施設の診断・管理指導」について、本年度は定期診断・要請診断を合わせ延べ49地区、123施設の診断を行った。



<診断実施期間>

定期診断：令和3年7月～10月

要請診断：令和3年7月～8月（緊急に要請診断が必要な場合等は期間外も実施）

<診断対象施設>

基幹的な土地改良施設で、農業用施設機能を有するおおむね以下の施設。

種目	ダム	頭首工	用排水機	樋（水）門	ため池	その他	水路
受益面積	10ha以上						20ha以上

◎定期診断指導

県内の基幹的土地改良施設を対象（下表）に、竣工年度や過去の整備補修年度等から勘案し、当会で選定した施設の診断指導を実施するもの。（10年サイクル計画）

【定期診断対象地区及び施設数】（H29年度土地改良施設調査より）

区 分	土地改良区・市町村数			土地改良施設数							
	改良区	市町村	計	ダム	頭首工	用排水機	樋（水）門	ため池	水路	その他	計
埼玉県全体	76	30	106	-	24	875	489	-	-	-	1,388
うち令和3年度 診断対象	24	4	28	-	0	39	49	-	-	-	88

※ その他：水管理施設、除塵機など

◎要請診断指導

当年度定期診断指導施設以外の施設で、土地改良区等から要請のあった場合に実施するもの。

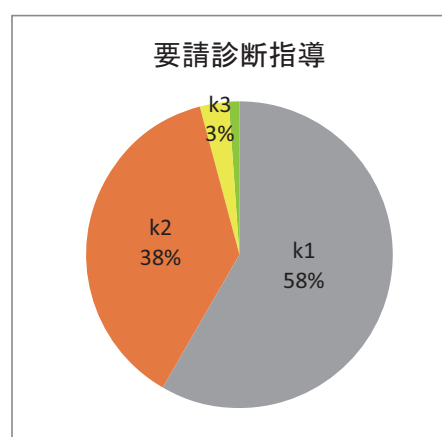
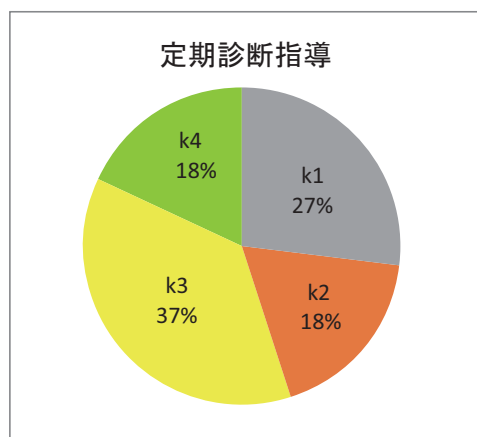
【令和3年度 診断実施施設】

(R3.12.1時点)

区分	土地改良区・市町村数 ※重複有り			土地改良施設数								指導 延日 数
	改良区	市町村	計	ダム	頭首工	用排水機	樋水門	ため池	水路	その他	計	
定期 診断指導	9	1	10	-	0	5	17	-	-	-	22	43
要請 診断指導	31	8	39	0	0	50	23	1	27	0	101	
計	40	9	49	0	0	55	40	1	27	0	123	

【令和3年度 診断結果】

総合評価	k1	k2	k3	k4	計
定期診断指導	6	4	8	4	22
要請診断指導	59	38	3	1	101
計	65	42	11	5	123



緊急度 重大 (k1)	機能低下が著しく、早急に整備補修を要するもの
緊急度 大 (k2)	機能低下が見られ、整備補修の検討を要するもの
緊急度 中 (k3)	経年的な機能低下傾向にあり、計画的な整備補修の検討を要するもの
緊急度 小 (k4)	運用上支障はないが機能低下の兆候も出てきており、経過の観察を要するもの

本年度診断施設の適正化事業への加入計画予定状況 (R4 新規加入に限る)

定期診断 (施設) 22 施設中、 2 施設 (9%)

要請診断 (施設) 101 施設中、 37 施設 (37%)

※R3.12.1時点

市町村長・水土里ネット理事長・市町村農政担当課長研修会

去る10月25日(月)、鴻巣市の鴻巣市文化センター（クレアこうのす）小ホールにおいて、市町村長、水土里ネット理事長、市町村農政担当課長を対象に、標記研修会が102名という多数の参加のもと開催された。

始めに本会の大図常務理事より挨拶をいただいた後、次の項目について研修が行われた。

1 この5年間の土地改良を振り返って

講師：参議院議員、全国水土里ネット会長会議顧問

進藤 金日子 氏

2 令和4年度農業農村整備事業関係予算等について

講師：農林水産省関東農政局農村振興部設計課課長

川島 秀樹 氏

3 共通認識で守る！これからの鳥獣害対策について

講師：野生生物研究所 ネイチャーステーション代表

古谷 益朗 氏

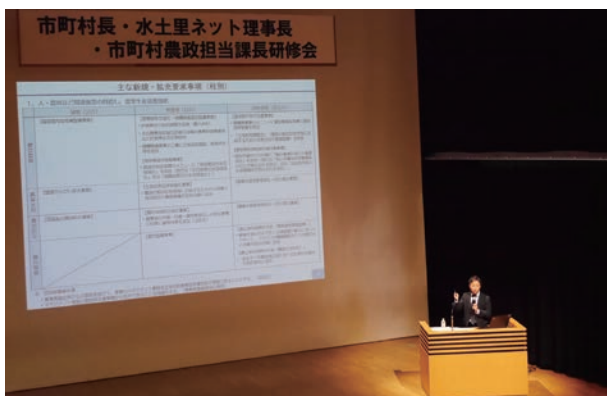
なお、研修にあたっては受付時の検温、マスクの着用を励行、出入口の換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じたうえで開催された。



会場の様子



講師：全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子 氏



講師：関東農政局設計課
課長 川島 秀樹 氏



講師：ネイチャーステーション
代表 古谷 益朗 氏

令和3年度 埼玉県多面的機能支援推進会議 市町村担当者研修及び意見交換会 開催

県内の多面的機能支払交付金事業の取り組みについて、実情の把握及び情報の共有により業務の効率化を図ることを目的とし、市町村の担当者を対象に県内を3つのブロックに分け、以下の日程にて開催された。

① 川越・東松山地域	11月18日（木）東松山市民文化センター 参加者25名（15市町村）
② さいたま・春日部地域	11月24日（水）埼玉県県民健康センター 参加者21名（11市町）
③ 秩父・本庄・大里・加須地域	11月25日（木）熊谷文化創造館さくらめいと 参加者23名（11市町）

はじめに埼玉県農林部農村整備課の井野主幹から挨拶があった後、次の事項について研修及び意見交換会が行われた。

1. 『地域の実情に応じた事業推進について』

講師：埼玉県農林部農村整備課 川鍋主事

内容：土地改良区との連携強化、ため池管理体制の強化、他

2. 『意見交換会』

テーマ1：多面的機能支払交付金に係る市町村職員の事務について

テーマ2：活動組織への指導、対応について

テーマ3：新規組織の立上げについて、他

意見交換会では、参加者の間で活発に質問や意見が交わされ、アンケート結果では、参加者の99%から「参考になった」との回答が得られた。

推進会議としては、今回寄せられた意見をもとに、今後の推進活動を通して事業情報を発信していく予定である。



①川越・東松山地域



②さいたま・春日部地域



③秩父・本庄・大里・加須地域

各会場での開催の様子

お知らせ

◆土地改良区理事、監事、職員並びに市町村担当職員等研修会

- と き 令和4年3月9日（水）
- 場 所 鴻巣市文化センター（クレアこうのす）大ホール
- 内 容 1、土地改良区等の適切な業務運営について（仮題）
2、農地中間管理機構と土地改良区の連携について（仮題）
3、土地改良区における遊休農地の対策について（仮題）

お問合せ先 水土里ネットさいたま 総務部地域支援課 TEL 048-530-7352

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては中止となる場合がございます。

農業基盤整備資金の金利改定について

令和4年1月20日付けの株式会社日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の金利改定について、下記のとおりお知らせいたします。（単位：％）

区 分	改 訂 前					改 訂 後				
	融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）				融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	0.45	—	—	—	—	0.45	—	—	—	—
団体営補助残	0.30	—	—	—	—	0.30	—	—	—	—
非補助一般	0.30	—	—	—	—	0.30	—	—	—	—
非補助利子軽減	0.30	—	—	—	—	0.30	—	—	—	—
災害復旧	—	0.16	0.17	0.30	0.30	—	0.16	0.17	0.30	0.30

お問合せ先 水土里ネットさいたま 事業部農村整備課 加藤 TEL 048-530-7348

連合会日誌

開 催 日	会 議 ・ 行 事	開 催 地
10月 25日	市町村長・水土里ネット理事長・市町村農政担当課長研修会	鴻 巣 市
11月 11日	埼玉県知事への要望活動	さいたま市
11月 16日	農業農村整備の集い	東 京 都
12月 26日	ため池サポートセンター研修会	熊 谷 市
29日～12月3日	土地改良区体制強化事業施設管理研修（後期）	さいたま市
1月 26日	さいたま水土里ネット女性の会 設立総会・研修会	鴻 巣 市

第9回 彩の国農業・農村景観フォトコンテスト

テーマ ～埼玉を彩る農業・農村の水土里^{みどり}～

本会では、さいたま・川越・東松山・秩父・本庄・大里・加須・春日部の各土地改良推進協議会の共催で、第9回「彩の国農業農村景観フォトコンテスト」を開催した。埼玉県内の豊かな自然環境や美しい農村環境、農業の魅力を広く一般の方々に紹介し、関心を高めていただくために、「埼玉を彩る農業・農村の水土里(みどり)」をテーマに募集したところ、県内をはじめ多くの方々から全352点のご応募をいただいた。

写真家の吉田功氏をはじめ、18名の審査委員による厳正な審査が執り行われ、水土里ネットさいたま会長賞、各土地改良推進協議会会長賞、学生優秀賞のほか、入選11作品が決定した。

表彰式は令和3年12月14日(火)本会大会議室において開催され、吉田審査委員長より講評をいただき、受賞者の方々には表彰状と記念品が授与された。



吉田審査委員長



審査の様子



会長賞の皆様



入選の皆様

また、12月17日(金)～20日(月)の4日間、熊谷市八木橋百貨店8階「オープンギャラリー熊谷」にて写真展を開催した。



受賞作品



水土里ネットさいたま会長賞

「落陽の田まわり」

撮影：大澤 美代子 場所：坂戸市



さいたま土地改良推進協議会会長賞
「小春日和」 撮影：細井 哲也 場所：さいたま市



川越土地改良推進協議会会長賞
「緑の大地」 撮影：石山 敬 場所：入間市



東松山土地改良推進協議会会長賞
「耕地にかかる虹」 撮影：宇津木 義雄 場所：川島町



秩父土地改良推進協議会会長賞
「収穫の候」 撮影：清水 洋 場所：横瀬町



本庄土地改良推進協議会会長賞
「玉ネギの収穫」 撮影：町田 正雄 場所：本庄市



大里土地改良推進協議会会長賞
「深谷ネギ」 撮影：野口 伸一 場所：深谷市



加須土地改良推進協議会会長賞
「桜咲く季節」 撮影：並木 鉄雄 場所：行田市



春日部土地改良推進協議会会長賞
「モミ殻焼き」 撮影：堀之内 稔 場所：蓮田市



学生優秀賞「秋に映える」
撮影：浜名 志歩 場所：吉見町



入 選「家族総出で」
撮影：栗島 祥次 場所：東秩父村



入 選「第3樋門から眺める夕陽」
撮影：宮崎 守 場所：本庄市



入 選「秋の収穫①」
撮影：渡部 毅 場所：毛呂山町



入 選「農業研修」
撮影：横田 京子 場所：鳩山町



入 選「戯れ」
撮影：野口 清和 場所：小川町



入 選「田んぼアート」
撮影：市川 隆一 場所：鴻巣市



入 選「ひと休み」
撮影：諸井 敏江 場所：狭山市



入 選「霧景」
撮影：沖館 宏 場所：滑川町



入 選「稲架掛けのある風景」
撮影：須藤 康男 場所：横瀬町



入 選「秋日和」
撮影：佐藤 邦江 場所：川島町



入 選「田んぼアート完成」
撮影：真下 廣義 場所：深谷市

